

# 令和7年度普及活動アルバム

上田農業農村支援センター

令和7年度の上田地域の気象経過は、年間を通じて気温が高く推移し、特に7月から9月にかけては高温傾向が顕著となり、観測史上最多となる42日の猛暑日を記録しました。8月以降は干ばつも伴って、農業現場においては、極めて過酷な生産条件になりました。当支援センターでは、農業者の皆様、市町村、農業関係機関・団体、メーカー各社との情報共有・連携を図りながら、担い手確保・育成、農畜産物の生産量の確保や品質の維持、地域農業の振興、有害鳥獣対策の推進、熱中症予防を含めた農作業事故防止対策などに取り組みました。



(重点活動) 稲倉の棚田勉強会

## 【3年間】(令和5～7年度)

重点活動として「上小地域における水稲農家の収量品質向上による収益確保」に3年間取り組みました。水稲大型農家やJA関係機関の協力を得て、近年の夏期の異常高温などに対応した新たな肥培管理体系とイネ縞葉枯病対策を確立しました。

また、稲倉の棚田の収量品質向上を図るため講習会の開催や栽培手順書を作成しました。



激励会で自己紹介する新規就農者

【5月】上小管内で新規に就農した者が、農業経営や仲間づくり等を円滑に行えるよう、先輩農業者や関係者が一堂に会して新規就農者激励会を開催しました。激励会には関係者を合わせ45名の出席があり、うち新規就農者は9名が参加し、交流会では、多くの仲間と交流できる良い機会となりました。



牧草品種試験圃と現地検討会の様子

【6月】飼料費高騰などで牧草生産が見直される中、一部地域では気候変動やシカ食害の影響により、牧草の収量が確保できない場合があります。このため、令和5年度から国の補助事業を活用した防護柵の設置にあわせて、牧草の優良品種の検討を行いました。農研機構、種苗会社、生産者を交えて現地検討会を行い、生育が早く多収な2品種を選抜しました。



**りんご夏季管理講習会**

【7月】りんご高密度植栽培は、早期多収と省力化が図れることから、近年は導入が加速化しています。一方で日焼け果の発生、凍害による樹体被害などの課題が見え始めてきました。そこで、高密度植栽培の推進を図るため、JA 関係機関、21 上小農業活性化協議会と連携し、課題解決のための講習会を実施しました。管内では、多目的防災ネットを導入する生産者が増加しており、日焼け防止対策としても有効であることを紹介しました。



**支部スキルアップセミナー**

【8月】農業士・農業経営者協会上小支部では、持続的で強固な農業経営が求められている現状を踏まえ、スキルアップセミナーを開催しました。農業利益創造研究所が保有する農業会計ビッグデータを活用し、競合都道府県との品目別経営内容を比較することで、自らの経営を客観的に分析し、農業経営者の意識改革と地域農業の活性化につなげることを確認しました。



**直売所組合役員との連携による啓発**

【9月】県内でも高齢者を中心に農業機械による農作業事故の発生が多く、春先からトラクターの横転などによる死亡事故が発生しました。毎年、農作業事故発生ゼロを目指し、市町村・関係機関と連携して農作業安全を推進しているところです。今年は農産物直売所組合、東御市と協力し、道の駅雷電くるみの里に出荷する農業者に対して安全啓発を図りました。



**地産地消や農業の魅力を伝える食育活動**

【11月】小学校5年生を対象に食育授業を開催しました。講師は地元の生産者などが務め、クイズ形式で、農業生産の概要や地産地消、八重原米のおいしさのヒミツ、地域の水稲栽培の歴史や特色、生産者になった経緯や農業のすばらしさ、将来一緒に農業ができることへの期待も伝達しました。



**プロジェクト活動・意見発表会**

【12月】上小地区の農業青年が、地域の課題等を解決するために実践してきた調査研究などの取組みと、日頃抱いている夢や想いを発表するプロジェクト活動・意見発表会を開催しました。プロジェクト活動発表の部と意見発表の部とも、農業青年2名ずつの発表があり、参加した農業者や関係者から、高い評価を得ました。



**ブロッコリー栽培反省会**

【1月】JA主催の講習会などで、ブロッコリー黒すす病を中心とした防除対策について情報共有しました。また、「初夏まき作型における栽植密度の違いが病害発生と品質・収量に及ぼす影響について」、調査研究に取り組み、その結果を栽培反省会で報告し、生産者の防除意識向上につながりました。



**ワイン用ぶどう生産者技術セミナー**

【2月】ワイン用ぶどうの栽培技術や経営管理能力の向上を図るため、生産者技術セミナーを開催しました。上田地域をはじめ、他地域の生産者を含め15名が参加。主要病害の生態と対策について、病害の発生する仕組みから、防除暦の組立て方まで、分かりやすい説明があり、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。



**コーディネーター等による相談**

【通年】道の駅和田宿ステーションは平成21年に設立され、令和6年には出荷者が138名いましたが、年々減少傾向にあります。また、通年販売する商品が少なく、SNS等での発信力も十分とは言えません。そこで、専門アドバイザーの指導により、何が売れているのか、主要品目・出荷者などのデータを抽出し、これをもとに生産者へ出荷要請を行ったり、新たな生産者も獲得し、前年と比較して販売数量を伸ばした品目があるなど、成果につながりました。